

頸部と左肩が痛み、壊れるような気がします。

#### MODALITY

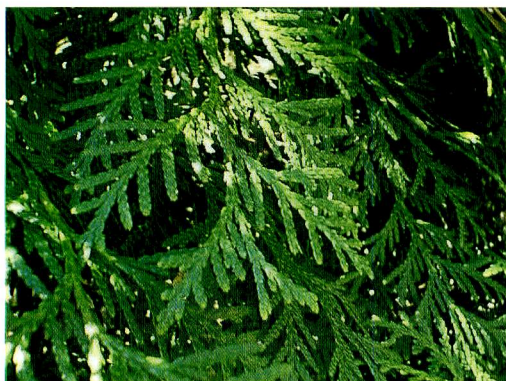
▶ 体を曲げること、入浴、湿気、急な動きなど  
周期的に悪化する傾向があります。

## Thuja occidentalis ニオイヒバ [自尊心の欠如、いぼ]

Thuja occidentalis L.

### BACK GROUND

Thujaは、ヒノキ科クロベ属の常緑針葉高木、ニオイヒバです。北米が原産で、現在では世界の温帯諸国にどこにでも見られます。



(I)

Arbor vitae (ラテン語でtree of life), tree of life, white cedarとも呼ばれています。

自生地では樹高20m、幹径1～1.5mになり、樹形は自然に狭円錐形になります。枝葉は短く水平鱗片状に密生し、枝先は上を向いて、葉下面は青緑色をしています。樹皮は赤褐色または灰褐緑色をしています。葉を擦ったり、枝を傷つけると柑橘系に似た芳香がします。

主な薬効成分には、タンニン、フラボノイド、精油が含まれます。精油には、 $\alpha$ -ツヨン (45%)、フェンコン、 $\beta$ -ツヨン (7%)、カンファー、ペイエレンなどが含まれています。とくにツヨンthujoneは、抗出血作用、利尿作用、皮膚や粘膜への作用が強く、高用量では、下痢、胃腸炎、神経毒作用などがあります。アロマセラピーでは、ごく少量を使って、疲労回復、鎮静作用、血圧降下、殺菌、殺ダニ効果を期待して利用されています。1894年以降、メディカルハーブとして、いぼ、癌、去痰剤、脱毛やにきびなどの治療に

使用されていました。

日本には明治中期以降、造園樹コニファーとして植栽されています。海外では、この木が腐食しにくいことから、建築用材、器具材、土木用材、船舶材など多岐に利用されています。

Thujaという名は、ギリシア語のThero, またはThyra (生け贄)に由来します。これは、異教徒の火炙りに、この木が使われたという言い伝えからきています。北米の先住民も、この葉と小枝をマラリアや咳、痛風、リウマチなどに使用し、また、悪いスピリットを退散させる儀式で燻炎させてきました。しかし、ヨーロッパでは、フランシス1世がフランスに持ち込んだのが最初であり、治療薬として知られている植物ではありませんでした。

### MATERIAL

レメディは、樹齢1年樹の葉と小枝を春に採取して粉砕し、アルコール漬けにして軟らかくしたものを原料にします。

### FIRST PROVING

他のレメディは、ハーネマンがブルーピングする際に、薬効や毒性がすでに知られていたものが多いのですが、このThujaをホメオパシーに取り入れたのは、ハーネマンのインスピレーションによるものです(『Materia Medica Pura』第5巻)。

ほかにもこういった例がいくつかあります。たとえば、polychrest remedyの1つであるCalcarea carbonicaは、ハーネマンの住んでいた地域が、牡蠣の産地だったことが影響しているようです。

Thujaは、ハーネマンのanti-sycotic remedyであり、ドイツのGrauvoglのhydrogenoid remedyです(Grauvoglのマヤズムには、oxygenoid, hydrogenoid, carbo nitrogenoidの3つがあります)。

## MIND

Thuja タイプは、がっしりした胴体に短い首、細い手足で脂性の顔面、歯並びが良くありません。汗も脂症で、甘い特有の臭いがします。女性では、毛深いことがあり、ひげがあったり、手足の毛が濃いこともあります。眉毛だけは、薄いことが多いようです。概して病気の外見をしています。

Thuja タイプは、目だって自尊心が欠如しています。これは、幼少の頃に虐待されたり、放置されて育ったことに起因している場合も見られます。当初は、爽やかで健全な、Phosphorusのような外向的なイメージを表現することにエネルギーを費やしますが、実は非常に繊細であることを隠していて、ちょっとしたことで動揺し、落ち込んでしまいます。そして外見はどうでもよくなってしまいます。病気になると無気力で1人になりたがります。音楽で泣いてしまうことがあります。仲間とのつき合いも嫌います。自分自身に罪悪感を感じることがあります。固定観念や強迫観念があり、またいろいろな被害妄想をしてしまいます。自分が他人に操られているとか、お腹の中に何か生き物が動いている、体と精神が分離する感じがするなどです。睡眠中に寝ごを言います。Thuja の子供は、小さめで骨が細く、自己表現が苦手です。

## AFFINITY

Thuja は、主に上皮組織や泌尿生殖器系粘膜内面、消化器系粘膜、リンパ系、神経系に親和性があります。

## CLINICAL APPLICATIONS

Thuja は、主に皮膚、泌尿器系、リンパ系、神経系に作用するレメディとして使用されます。

### ■皮膚

- ・いぼ状に増殖する病変：とくに手と指先のいぼ
- ・乳頭腫やカリフラワー状の病変
- ・小水疱性丘疹や膿疱性の皮疹
- ・にきび、しみ、メラノーマ、爪の変形、爪周囲炎

### ■泌尿生殖器

- ・前立腺肥大（ほかに、*Sabal serrulata*, *Baryta carbonica*, *Aurum muriaticum* など）
- ・淋病後の影響や非悪性の細菌による尿道炎
- ・膀胱ポリープ（*Nitricum acidum*, *Calcarea carbonica* など）
- ・帯下、子宮内膜炎、卵管卵巣炎
- ・線維腫、ポリープ、卵巣嚢腫
- ・再発性膀胱炎
- ・コンジローム
- ・ヘルペス

### ■神経系

- ・神経痛：とくに神経痛の部位に筋肉のふるえがある場合に有効です。
- ・関節炎
- ・左側の頭痛：とくに前頭部と側頭部の痛み
- ・頭頂部の頭痛：釘を刺されたような痛み
- ・うつ病、過食症
- ・固定観念が強く、疾病恐怖症
- ・脊柱側弯症

### ■その他

- ・遅延型アレルギー（喘息、湿疹など）：喘息は *Arsenicum album* でうまく反応しなかった場合
- ・扁桃腺肥大や腺腫
- ・乾癬、白癬
- ・麦粒腫
- ・腫瘍、癌

Thuja は、実験的にリンパ組織と細網内皮系組織に影響を与えることが知られており、体の免疫に深く作用します。免疫機能障害を引き起こしそうなすべてのケースで、Thuja の処方を選択することができます。

次の影響下では、とくに考慮されます。

### ■異蛋白質の注射後（ワクチン、輸血など）

### ■長期に繰り返し投与される抗癌剤、抗生物質、ステロイドなど

### ■工場や食物、農薬などの汚染

### ■再発を繰り返す感染（鼻咽頭炎、外耳炎、気管支炎、膀胱炎など）

### ■持続性のストレス

## MODALITY

### ▶ 動くこと、湿気のない暖かさ、発汗

### ◀ 寒くて湿っている、午前3時と午後3時、ワクチン後、タマネギ、紅茶、左側、夜

## RELATIONS

- ・Complementary： *Arsenicum album*, *Lachesis*, *Natrum sulphuricum*, *Silica*, *Sabina*, *Sycotic Co.*, *Medorrhinum*
- ・Compatible： *Nitricum acidum*, *Sabina*
- ・Follows well： *Medorrhinum*, *Mercurius*, *Nitricum acidum*
- ・Followed well by： *Mercurius*, *Sulphur*, *Calcarea carbonica*, *Ignatia*, *Lycopodium*, *Kali bichromicum*, *Pulsatilla*, *Silica*

● *Thuja lobbi*： *Thuja occidentalis* と同属のレメディです。作用はよく似ています。